テレパシー　the other

伊藤貴晴　作

【登場人物】

男

女

公園。ベンチに女が座っている。男がやってくる。

男 何してるの？

女 別に

男 ずっと座ってるよね

女 関係ないでしょ

男 待ち合わせか何か？

女 ナンパ？

男 そうだよ

女 本気？

男 うん

女 そうは見えないけど

男 よく言われる。何しても本気には見えないって

女 あなたは何してるの？

男 俺？

女 さっきからずっとそこに立ってたけど

男 待ち合わせ

女 ずいぶん長いこと待ってるのね

男 うん

女 すっぽかされたんじゃない？

男 多分ね

女 何だ

男 何？

女 私と同じじゃない

男 彼氏、来ないの？

女 全然来ない

男 そうなんだ

 間。

男 座ってもいい？

女 どうぞ

 男は女の隣に座る。

男 どのぐらい待ってるの？

女 三時間

男 三時間？

女 お尻が痛くなっちゃった

男 そりゃそうだ

女 あなたは、一時間ぐらい？

男 見てたんだ

女 他に見るものないから

男 足が棒みたいだよ

女 座ってれば良かったのに

男 ベンチは君が座ってたろ

女 そうね

男 早くどかないかなーって、思ってたんだよ

女 残念でした

男 まだ待ってるの？

女 帰るのも面倒

男 なるほど。じゃあ俺も帰れないな

女 どうして？

男 隣に三時間待ってる人がいるのに、一時間で帰れないだろ

女 変な意地張らないでいいのに。諦めて帰ったら？

男 とりあえず座って休憩したい

女 そうね

 間。

女 何か喋って

男 え？

女 気が紛れるから

男 月が綺麗だね

女 何？　そのとってつけたような言い方

男 文句言うなよ。綺麗だろ、月

女 うん

男 最高の夜だね

女 最低

男 電話、繋がらないの？

女 電源入ってないみたい

男 そっか

女 あなたは？

男 見てたろ、散々電話かけるところ

女 うん、見てた。かわいそうだなーって思ってた

男 人のこと言えないだろ

女 私も二時間くらい前はそんな感じだったなーって。何かもうどうでもよくなっちゃって

男 何で帰らないの？

女 何でだろ？　意地？

男 意地か

女 ムカツクじゃない。向こうが誘ったのにさ

男 ああ、そりゃあ頭にくるな

女 いっつもそう。自分で約束して、勝手に忘れるの

男 いつも？

女 約束の時間に来なくて、電話したら「ごめん、今行く」とか

男 そりゃあ、最低な男だ

女 最低、あんなヤツ

男 つかぬことを聞くけど

女 何？

男 何でそんなヤツと付き合ってるの？

女 私に聞かないで。今、後悔してるとこだから

男 なるほど

女 今日はちゃんと来ると思ってたのに

男 今日は何かあったの？

女 付き合って一年

男 へぇ

女 あいつが言い出したの。記念日だからお祝いしようって

男 じゃあ、プレゼントを買ってて、それで遅くなって

女 だったら連絡ぐらいするでしょ

男 そりゃそうだ

女 それに、プレゼント買うのに三時間もかかる？

男 優柔不断な男ならかかるかもね

女 そんな男イヤ

男 ごもっとも

女 あなたは？

男 何？

女 どんな人を待ってるの？

男 付き合って二年になる彼女

女 結構長いね

男 別れ話をしようと思ったんだけどね

女 そうなの？

男 向こうから言われたんだよ、別れたいって

女 うん

男 でも俺はどうしても納得できなくて、とりあえず会って話をしようって、一方的に今日の約束をしたんだけど

女 でも来ないんだ

男 会いたくないんだろうな

女 他人事みたい

男 だって仕方ないだろ。来ないんだから。電話も出ないし

女 何でそんなに冷静なの？

男 そういう性格なんだよ

女 本当に好きなの？

男 彼女のこと？

女 うん

男 好きだよ。世界中の誰よりも好きだよ

女 よくそんな恥ずかしいこと言えるわね

男 だって、そうやって思ってるから

女 本気？

男 もちろん

女 ナンパしてるんじゃなかったの？

男 あれ？　期待してたの？

女 少しね

男 素直だね

女 気晴らしぐらいにはなるかと思って

男 その程度か

女 ダメじゃない、ナンパなんかしてたら

男 え？

女 好きなんでしょ。彼女のこと

男 ああ

女 あーあ、お腹空いた

男 食べてないの？

女 食べに行く予定だったの

男 そりゃそうか

女 ご飯食べた？

男 いや

女 お腹空いたなぁ

男 満月って、ビスケットみたいに見えない？

女 そう？

男 あの丸いの

女 ビスケットって言うより、飴みたい

男 三日月は飴みたいに見えるよ

女 うん、ああいうお菓子あるよね

男 腹減ると何でも食べ物に見えてくる

女 それって重症だよ

男 そうか？

女 綺麗だね、満月

男 ああ

女 月ってさ、本当に兎とかいないのかな？

男 何それ？

女 よく言うじゃない。月には兎がいて、お餅をついてるの

男 ああ、そうだな

女 本当は何にもいないんだけどね

男 いや、いるよ

女 え？

男 月の世界には、兎もいるし、かぐや姫もいる

女 かぐや姫？

男 知ってるだろ？

女 うん、少しぐらいはね

男 今は昔、竹取の翁という者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろずのことに使いけり。名をば、さかきのみやつことなんいいける。その竹の中に、もと光る竹なん一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしゅうていたり。

女 それ、高校で暗記した

男 竹取物語の冒頭。有名な文章だよ

女 よく覚えてるね

男 俺、大学で講師やってるんだ。専門は古典

女 ふーん

男 変わった人だって思っただろ

女 うん、思った

男 趣味の世界だからねぇ

女 それで？

男 ん？

女 竹取物語がどうかしたの？

男 どんな話だったか覚えてる？

女 うん、一応。竹の中にかぐや姫がいて、それをお爺さんとお婆さんが大切に育てて、かぐや姫はとっても綺麗に成長しました。それで、かぐや姫は沢山の男にプロポーズされるけど、それを全部断って月に帰っちゃうんでしょ

男 うん、大体そんな話

女 子供の頃に絵本で読んだ

男 かぐや姫ってどう思う？

女 うーん、美人っていいよね。私もそんな風になりたかったな

男 本当に羨ましい？

女 うん。どうして？

男 たくさんの男から求婚されてさ、その中に好きになった人がいたとして

女 うん

男 でも、その人を置いて月に帰らなければいけないとしても？

女 それは、どうなんだろう？

男 かぐや姫の身長は三寸。九センチぐらい。でも最初から大人と同じ形をしてた。それからたった三ヶ月で、成人女性と変わらない大きさになったんだよ

女 そうなの？

男 あまりにおかしな話だから、宇宙人だって説もあるぐらい。でも月の世界の人なんだから宇宙人と言えばそうだし、お話なんだから別におかしなことがあったっていい。問題は、どうしてかぐや姫が地球にいたかってことなんだ

女 どうして？

男 さあ？

女 さあって何？

男 分からないから考えるんだよ

女 そうなの？

男 ああ

女 観光じゃない？

男 観光？

女 月から地球旅行

男 なるほどね。じゃあ次の質問。かぐや姫は求婚してきた五人の男に無理な要求をする。実際にはありもしない宝を持ってきたら結婚するという約束をした。どうしてだと思う？

女 しつこかったから、何とかして断ろうとしたんでしょ？

男 誰かと結婚しちゃえばよかったじゃないか

女 それは、月に帰らなきゃいけなかったから

男 帰らなきゃいいんじゃない？

女 でも、そういう話でしょ？

男 そういうことを言ってるんじゃないよ

女 どういうこと？

男 どうしてそんな話になったかっていう問題。誰かと結婚しちゃえば、大好きなお爺さんとお婆さんと別れることもなかったし、その男と十分幸せになれたと思うけどな

女 そんなこと言い出したらきりがないんじゃない？

男 そうだよ。答えが出ないことを考えてるんだ

女 ふーん

男 かぐや姫は可哀想だなーって、思うんだよ。どんなに周りの人に好かれても、一緒にはいられないんだから

女 悲劇？

男 ああ、悲劇

女 確かに、誰も好きになっちゃいけないっていうのは不幸かもね

男 ああ

女 でも、私は男の人達の方が可哀想だと思うけど

男 え？

女 どんなに好きになっても、絶対彼女とは結ばれないんでしょ。それでも必死で宝物を探して。可哀想だよ

男 そうだな

女 そっか、かぐや姫は可哀想だったんだ

男 どうした？

女 私は今日ものすごく不幸だと思ってた。自分のこと、可哀想だって思ってた

男 うん

女 でも、それなら、私はかぐや姫よりは幸せかもね、ってね

男 そうかもな

女 あなたも

男 ん？

女 その男の人達よりは幸せになる可能性があると思うよ

男 そうかもな

女 あーあ、あいつ、今何してるんだろう？

男 さあ？

女 私のこと忘れちゃったのかな？　何で好きになったんだろ？

男 何でだろうねぇ

女 本当に私のこと好きなのかな？

男 え？

女 きっともう好きじゃないんだよ。私のことなんかどうでもいいんだろうな

男 そんなの、分かんないだろ

女 そうだよ、分かんないよ。だからこうやってうじうじしてるんじゃない。さっさと帰っちゃえばいいのにさ、あいつのことなんか忘れちゃえばいいのにさ。怖いんだもん。嫌われたくないもん

男 うん、そうだな

女 相手の考えてることとか、分かればいいのにね

男 分からないから苦労してるんだろ。こうやって悩んでさ

女 テレパシーとか使えればいいのに

男 テレパシー？

女 相手の考えてることが簡単に分かるの。自分の考えもすぐ伝わって。どこにいても、すぐに繋がるの。そしたら、離れてても大丈夫じゃない？

男 そうだな。いいな、テレパシー

女 でしょ？

男 でも、自分の考えが筒抜けなのは困るよ

女 あなたはそのぐらいでちょうどいいんじゃない？

男 何で？

女 何て言うか、本心が分かりづらい。どこまで本気か分からないし。だから、ちゃんと気持ちが伝わってないんじゃない？

男 ああ、そうだと思う

女 だから、要るでしょ。そういうチカラ

男 確かに

女 相手の気持ちもちゃんと分かるし

男 でも

女 ん？

男 分からないから、考えるし、努力もする。そういう考えはダメかな？

女 ううん。そうだね、分からないからいいんだよね。でも、今だけそういうチカラ、欲しいな。ずっとはいらない。今だけでいいから。そう思わない？

男 うん、そうだな。すぐ繋がる電話みたいな

女 そうそう。ハローって

男 ハロー

女 ハロー

男 ハロー

女 ハロー、聞こえますか？　聞こえたら返事しろ、バカヤロー。ハロー

 終わり。